

## 「社会を明るくする運動」に参加

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、6月28日（日）、横浜市鶴見区寺尾第二地区の「社会を明るくする運動」（主催：法務省）において、広報活動を行った。

この活動は、毎年各地域の社会福祉協議会及び地域の自治会・町内会等の共催により行われているもので、今年も「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ『安心』のまちづくり」のスローガンのもと、横浜市鶴見区馬場にある入船川遊水地公園で行われた。

広報ブースでは、航空自衛隊ブルーインパルスを中心にパネル展示を行った。理由としては、当地区から史上初めて、稲留智（いなどめ さとし）3空佐（2番機、平成14～17年、階級は当時）と稲留仁（いなどめひとし）2空佐（1番機、平成27年）の、兄弟がブルーインパルスのパイロットになっているからである。また、稲留兄弟の父親で、横浜自衛官募集相談員でもある稲留末治氏は、パイロットを目指したいという子供たちに、「パイロットになるためには」という話をわかりやすくしていた。

横浜出張所は、「今後も、地域と密接に連携し、自衛隊の活動に対する理解と信頼を得る努力を継続し、防衛基盤の拡充及び募集成果に繋げていきたい」としている。



ブルーインパルスの説明を熱心に聴く来場者



来場者に対し説明をする稲留（いなどめ）相談員（右）



写真パネルに足を止める来場者

## 相模原市内4駅へ自衛官募集横断幕の設置

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚2陸尉）は、6月29日（月）、相模原市主要4駅（小田急相模大野駅、JR淵野辺駅、JR相模原駅、JR橋本駅）の歩道デッキに自衛官募集の横断幕を設置した。

今回の横断幕設置は、昨年9月、相模原募集相談員会会長（大松 行信 氏）と相模原地域事務所長が、相模原市市民局・区政支援課へ陳情したところ可能となったものである。

相模原市は、都内への通勤・通学者が多く、4駅合計で約25万人が利用している。横断幕は、改札口から出て一目で目にとまる歩道デッキに設置されており、より広く市民に自衛官募集を知ることができるものになっている。

また、7月1日（水）には、相模大野駅において、真新しい横断幕をバックに所員及び募集相談員は、ポケットティッシュを配布し、市街地広報を行った。

相模原地域事務所は、「今後も、自治体や募集相談員との連携を継続し、市民と密接した募集広報活動を行い、自衛隊の理解を更に深めると共に自衛官募集の成果につなげたい」としている。



自衛官募集横断幕



相談員の話に学生が聞き入る